

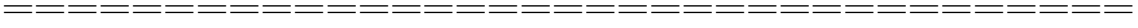


電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2018年度 No.1)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆ 2018年度運営委員長からのご挨拶
- ◆ FIT2018 (第17回情報科学フォーラム) 開催のご案内
- ◆ HCG シンポジウム 2018 への投稿のご案内
- ◆ 研究会活動紹介 (MVE 研究会)
- ◆ 研究会活動紹介 (AC 研究会)



2018年度運営委員長からのご挨拶

委員長
新井田統 (KDDI 総合研究所)

2018年度のヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) 運営委員長を務めることになりました, KDDI 総合研究所の新井田統です。私は工学分野で研究者としてのスタートを切り, 現在は社会科学や人文科学のアプローチを取り込んで学際的な研究を行っています。このため, 電子情報通信学会において他分野との連携を主導する HCG へ運営委員長として貢献できることは, 大変に光栄かつ嬉しく思っています。

閉塞する日本経済の変革に向けてイノベーションが強く求められる昨今ですが, HCG の特徴である学際的な研究の推進は, イノベーションを起こす上で重要な役割を果たすと考えられています。新たな価値を社会に提供するプロセスにおいては, 技術的な課題の解決だけでなく, 人々の心理や行動の側面を考慮した課題設定が求められるためです。こうした活動は世界中で増えており, 例えば 2015 年の国連サミットで採択された SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) では, 「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」といった, 技術だけで解決することは困難な目標が定められ, これらの目標に対して活動が進められています。今後もこうした活動が活発になってゆことは間違いありません。

こうした社会の変化の中で, HCG もこれまで同様に学際研究の発表・議論の場を提供すると共に, 学際研究を推進する人材の育成を支援する場として機能することがより強く求められていると考えています。また, 研究成果を実践に繋ぐ企業とアカデミアの連携を志向した活動も必要になってくるのではないのでしょうか。

このため, 運営委員長として今年度は 3 つの活動を進めることを考えています。一つ目は, HCG のコミュニティとして研究の成果を積み重ねてゆく方向性を明確化することです。これは, 2016 年度から開始した常設編集委員会の活動を更に推進してゆくことで実現します。二つ目は, 分野間での研究手法に関する相互理解を推進するための場を設けることです。昨年度に引き続き, シンポジウムなどで関連分野の研究手法に関する講演会を企画します。三つめは産学官連携の促進です。研究会やシンポジウムで, 実践事例の報告を奨励します。

多くの研究者の皆さまにとって、HCGが研究推進に役立つ場となるよう、運営委員会のメンバーと協力して活動を行っていきたくと考えています。皆さまも是非ご協力の程よろしく申し上げます。

=====

FIT2018（第17回情報科学技術フォーラム）開催のご案内

企画幹事
青木良輔（NTT）

電子情報通信学会（ヒューマンコミュニケーショングループ、情報・システムソサイエティ（ISS））および情報処理学会（IPSJ）が共催する、FIT2018（第17回情報科学技術フォーラム）の開催をお知らせいたします。今年度は、福岡工業大学において開催されます。

- ・会場：福岡工業大学（福岡県福岡市東区和白東3-30-1）
- ・会期：2018年9月19日(水)-21日(金)

最新情報につきましては下記をご覧ください。

<https://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2018/>

情報処理学会（IPSJ）と電子情報通信学会情報・システムソサイエティ（ISS）及びヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）との合同で開催致します。本フォーラムは、IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。今年度は既発表論文紹介ができるようになり、国際会議や論文誌で採録された研究内容を日本の多くの方々に紹介できる機会が設けられております。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2018船井業績賞は、Jiawei Han (Abel Bliss Professor, Department of Computer Science, University of Illinois at Urbana-Champaign) の受賞が決定しており、受賞記念講演が9月20日(木)に予定されています。なお、一般講演の応募論文からは、船井ベストペーパー賞とFIT論文賞が選定されます。また、以下のような情報科学技術に関する様々なテーマの学会・研究会企画によるイベントが開催されますので、是非ご参加下さい。

【9月19日(水)】

- ・ビッグデータ時代の医療と情報
- ・ITと法、交渉ごと
- ・LOIS研究会10周年記念シンポジウム
- ・最適モデリング
- ・革新的コンピューティング ～技術レイヤー横断の研究開発による新たな基盤技術の創出～
- ・AI TECH TALK

【9月20日(木)】

- ・クラウドソーシング/ヒューマンコンピューテーション～デジタルプラクティススライブ～
- ・機械学習と実応用（PRMU/IBISML共催 CVIM連催研究会）
- ・FIT学術賞 表彰式
- ・FIT2018 船井業績賞受賞記念講演
- ・人間を中心としたパターン認識・メディア理解の技術

【9月21日(金)】

・機械学習と実応用 (PRMU/IBISML 共催 CVIM 連催研究会)

=====

HCG シンポジウム 2018 への投稿のご案内

企画幹事
吉田悠 (NEC)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) が主催する HCG シンポジウム 2018 への投稿のご案内です。

- ・会場：シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (三重県伊勢市)
- ・会期：2018年12月12日(水)-14日(金)
- ・発表申込締切：2018年9月20日(木)24:00JST
- ・発表原稿締切：2018年10月19日(金)24:00JST

発表申込や最新情報につきましては、下記をご覧ください。

<http://2018.hcg-symposium.org/>

HCG シンポジウムは、HCG に属する各研究会はもとより、その他の研究分野との横断的かつ濃密な交流を促進しています。全ての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠が設けられ、幅広い分野の参加研究者とのディスカッションを行うことができます。この機会を是非ご利用ください。

- ・口頭発表者によるインタラクティブ発表は義務ではありませんが、コアタイムにはできるだけご参加ください。
- ・インタラクティブ発表ではポスタ (印刷したスライドも可) を掲示して頂きます。ノート PC を用いたデモも可能です。
- ・インタラクティブ発表のみの参加者も募集します。萌芽的な研究やプロジェクト紹介などにご活用ください。

特に学生の皆様にとっては、修論・卒論等の執筆開始時期に合わせて、外部研究者からの多様な意見が得られ、より多面的な観点でバランスのとれた論文執筆に役立てられます。ぜひ積極的にご参加ください。

また、特定のトピックに関する研究発表を集めた「特集テーマ」を企画しています。詳細は Web ページをご覧ください。

本シンポジウムで優れた研究発表を下記の通り表彰する予定です。

- ・最優秀インタラクティブ発表賞
- ・優秀インタラクティブ発表賞 (一般のみ)
- ・学生優秀インタラクティブ発表賞 (学生のみ)
- ・特集テーマセッション賞

金沢市で行われた昨年は、研究発表 124 件 (招待講演 1 件, 口頭 105 件, インタラクティブのみ 18 件) 参加者 244 名となりました。

今年も皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

シンポジウムに続き、電子情報通信学会論文誌においてヒューマンコミュニケーション特集号が予定されております。ぜひご投稿ください。

本シンポジウムでの優秀な論文は本特集号へ推薦いたします。

情報保障のご案内: 視覚や聴覚等に障がいのある方に対し情報保障を行います。詳細は Web ページをご覧ください。

研究会活動紹介 (MVE 研究会)

MVE 運営委員長
間瀬健二 (名古屋大)

メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会 (Media Experience and Virtual Environment, 略称 MVE) は、昨年 4 月に研究会名称を変更して、この新しい名称で再スタートしました。

当研究会は、ヒューマンコミュニケーショングループ内の第 1 種研究会として、様々な研究分野をカバーする学際的な研究会として長年その責を果たしてきました。コンピュータと人間のインタラクションを媒介するメディアを対象とし、とりわけ、バーチャル環境の新技术の実現などに焦点をあて、人間と機械の関係の分析にいたる基礎的な分野まで担ってきました。未開拓分野の新奇な概念や奇抜なアイデアに関する研究発表も広く受け入れ、討論をしてきました。そのようなアイデアを実現したシステムの解析・評価は、定まった方法論が定まっていなくても多くあります。本研究会は、そのような新しいメディアの先駆的な研究をしてきた研究者が幹事団や委員に集まっており、熱い議論を繰り広げています。そうして、解決の端緒発見に寄与したいと考えます。毎回の研究会から発表 10 件に 1 件選出を目安として選出している MVE 賞も、テーマの新規性、有効性、将来性を評価して選んできているところですが、新しいアイデアをしっかりと分析した発表が選ばれているように思います。また MVE 賞受賞者から HCG 賞への推薦を行っています。

<http://www.ieice.org/~mve/award.html>

名称変更して 1 年が過ぎましたが、まだ「メディアエクスペリエンス」の研究分野が何なのか、イメージがはっきりしないという方もいらっしゃるでしょう。研究専門委員長の立場から、自分の考えを織り交ぜて、その解釈をすこし披露したいと思います。メディアエクスペリエンス (MX) は、様々なメディアを駆使した人間-機械インタラクションにおけるユーザエクスペリエンス (UX) に焦点を当てています。言うまでもないことですが、ここで対象とするメディアは、計算可能な情報メディア (computational media) であり、コンピュータとネットワークの出現により飛躍的に拡大しています。例を挙げれば、VR/AR、ソフトウェアエージェント、知能ロボット (ヒューマノイド、自動運転車、ホームロボットなど)、知的環境、ユビキタス・モバイル・ウェアラブルシステム、SNS などが、人間同士のコミュニケーションや人間-機械間のインタラクションのメディアになっていると考えられます。そのような情報メディア時代における、新しいエクスペリエンス研究として、単に、要素レベルのインタラクション評価や局所的な側面からの性能や使いやすさといった指標にとどまらず、ユーザ体験の豊かさ、楽しさ、満足度といった内容まで視野に入れつつ、システム・サービスの総合的な効果・効用や社会的影響を指標とした評価の研究発表を歓迎します。そしてその MX がどのように一人ひとりの行動や生活を豊かに変え、新しい高度情報化社会デザインに寄与するかを皆さんと議論したいと思います。このような MX の実現例、ユーザ評価、システム評価、知見の分析と理解、モデル化、基礎理論等に関する研究発表を広く募集しています。

発表形式としては、一般発表 (6 頁以内、質疑 25 分程度) に加え、萌芽的内容や途中計画報告のショート発表 (2 頁、同 20 分程度) を用意しています。またメンター制度を実施しており、研究会専門委員から発表前にアドバイスを受けることができます。

従来からの MVE 研究会の発表者・関係者や、この分野に近い会員の皆様はもちろん、これまで発表先の選定に逡巡されていた研究についても、当研究会での発表を歓迎します。メディアエクスペリエンスはまだ新しい概念です。あなたの研究はきっと MX 研究の側面をもっています。是非ご発表いただき、MX 研究分野を一緒に築いていきませんか？

研究会活動紹介 (AC 研究会)

AC 運営委員長
山崎俊彦 (東京大)

魅力工学研究会 (Attractiveness Computing 研究会, AC 研究会) は 2017 年 8 月 1 日に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) の特別研究専門委員会として発足した, 新しい研究会です.

テキスト, 音声, 画像・映像といったメディアデータの処理・認識は半世紀以上に渡って研究が行われ, ビッグデータの拡充や機械学習・深層学習の成熟, 計算機能力の向上とあいまって様々な実ビジネスに応用されるに至っています.

一方, そのように客観的に誰しもが理解できる情報だけでなく, 感情・情動, 感性, 意図, 記憶といった上位レベルの人間内部の理解が必要な「メタな情報・状態」の処理・認識が求められつつあります.

その中で「刺さる」「映える」といったコト・モノをいかに魅力的にするかということが重要になりつつあります. 魅力の処理・理解・認識のためには単に従来のコンピュータサイエンス分野だけにとどまらず, 心理学・認知科学・脳科学といった人間の理解から, 接触・非接触による計測, 計測結果や行動ログ, コンテンツなどの理解・処理・認識など多種多様な議論が必要となります. それぞれの分野については電子情報通信学会内で対応する専門委員会が存在しますが, 人材・研究成果が散在し集約されていない, またそれぞれの専門分野においては必ずしも「魅力」に特化して議論されているわけではないという問題がありました. そこで, 分野縦横断的に魅力研究に関する学術・産業界の研究者が集まる場を提供し, 学問として深掘りしていただくだけでなく異分野研究者同士のコラボレーションを創出しようという趣旨で設立されたのがこの AC 研究会です. 実際, 多くの共同研究, 産学連携が生まれています.

これまで, 魅力に関する国際会議併設ワークショップを 3 年連続で開催し (うち 2 回は研究会発足前の自主企画), それぞれ数十名の参加者を得るに至っています. また, 昨年開催した魅力工学研究会シンポジウムでは定員 90 名のところ, 100 名以上の参加者があったほか, 日経 BigData でも取り上げられました. 今年のシンポジウムは 2018 年 9 月 5 日 (水) に大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワーにて開催されます. 翌日からは MVE9 月研究会も同会場で開催されます. 詳しくは <http://www.attractiveness-computing.org/> を御覧いただき, ご都合付く場合は奮ってご参加ください.

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について,
詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/> をご覧ください.



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ

Copyright (c) 2018 IEICE, All Rights Reserved.



☆e-mail による情報配信を必要としない方は, その旨 henkou@ieice.org まで会員番号, 氏名をご連絡ください. 処理に 1 ヶ月程度かかりますので, 入れ違いに, 再度情報配信された場合は, ご容赦ください.

(ご連絡いただいた場合は本会, 登録ソサイエティ, グループ, 支部, からの全ての情報配信が止まりますので, 情報配信を再度希望される時も, その旨,

henkou@ieice.org までご連絡下さい.)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659